

ミャンマー（ヤンゴン市）の現地調査記録

食品卸A社（ヤンゴン市）：2018年6月21日実施

(1)燃料価格の高騰

直近3ヵ月で燃料価格は30%程度高騰している。その背景には、石油会社の寡占構造、石油精製場所がヤンゴンのみであるため、地方に行くほど価格が高くなることなどが挙げられる。

(2)物流不均衡による問題

ミャンマーは農産物や紙タバコの原料等をタイへと輸出するのに対し、タイからは家電製品や加工食品などが輸入される。ミャンマーからの輸出量が少ないのに比べ、タイからの輸出量が多い。こうした貨物輸送量の不均衡が、貨物輸送を困難にさせる。つまり、ミャンマーからタイへの貨物輸送がビジネスになりにくいといえる。

(3)物流事業における雨季という季節特性

雨季は1年のなかでも需要が落ち込みやすい。観光客が減少することで、料飲店やビール等飲料需要が落ち込む。さらにミャンマーにとって主力輸出品である農産物も雨季の前に収穫期は終わっている。こうした状況が貨物量の不均衡を生み出す要因ともなっている。こうした要因はトラックオーナーにとって会社設立の阻害要因となる。したがって、トラックオーナーは車を保有し、ドライバーを日雇いする形での事業を行うことが多い。

(4)ミャンマー人の特性と人材教育に関する課題

やさしく温厚で素直な人が多いミャンマー人の人材教育をする問題として、成長戦略の立案（計画等含め）することがやや苦手な人が多い。事業活動の計画を立案できるミドル・マネジャーをどのように育てていくかが当該企業の課題である。